

第 3 回地域検討会(山形県)での指摘事項に対する対応(案)

(1) 前回議事録及び指摘事項について

特になし

(2) 概況調査結果について

1	<p>【指摘】事例調査について、主催者、参加者、活動の名称等の表記を確認して修正されたい。</p> <p>【対応】事務局で確認を行い、指摘箇所を修正した。</p>
---	---

(3) クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要について

1	<p>【指摘】調査範囲の共通調査枠の設置方法の図を、枠の実態に合わせた絵にして正確に記載されたい。</p> <p>【対応】絵の描き方について個別に書くなり、工夫していきたい。</p>
2	<p>【指摘】プラスチック類という材質別分類には漁網も入っていると思うので、もう少し分かった方がいい。</p> <p>【対応】プラスチック類の分類の中に漁網が入っているかどうかブレークダウンするため個数の集計結果を添付している。</p>
3	<p>【指摘】全国の重量別比較があるが、対策を考える場合、人工物が自然物かで大分違ってくる。少なくとも 2 つ位に分けたデータを見たい。</p> <p>【対応】人工物と自然物について、別個に色分けして判別できるものを作成したい。</p>
4	<p>【指摘】ロシアが全然なくて、関係ないというような誤解、印象を持たれる場合がある。何か補足をして、海岸の実際の状況がわかるような示し方が必要ではないか。</p> <p>【対応】国別にデータを取っているが、一律に見ることは難しいと思う。ペットボトルとライターに絞ってやってきたがロシアは出ていないので、そう見える可能性がある。見せ方を工夫したい。</p>
5	<p>【指摘】一般にかさ比重は 0.1 から 0.12 の感じで、0.2 というのは結構重いゴミになるだろう。換算で 0.2 を基準として使われているが、補足的なことを表記し、データまとめて検討してもらいたい。</p> <p>【対応】検討を含めて対応する。</p>

(4) その他の調査の進捗状況に関する説明

1	<p>【指摘】ペットボトル漂流試験は、水が出る時期とか、もう少し 1 年間の時期をとらえてやったほうがいいたろう。</p> <p>【対応】出水時の把握が困難であるとの御助言をいただき、検討した結果、今年度はペットボトル漂流試験は実施しないこととした。</p>
---	---

(5)次年度調査計画及び今後の検討事項に関する説明

特になし

(6)全体を通じての質疑応答

1	<p>【指摘】モデル調査に選定されたテーマで、飛島の場合は漁網があった。飛島から出した課題は、漁網であると再度確認していただき、きちっと対応していただきたい。</p> <p>【対応】漁網も1つの大きなテーマだと認識している。実際にモデル調査の独自調査の中で漁網回収や漁網の切断方法の検討を行っている。ただ、漁網は非常に重要なテーマだが、まずは海岸に漂着している範囲内を中心にやっていきたいという考え方である。作業安全性もあるので、海岸全部がまず除去できてから余裕がある場合に再度検討していきたい。</p>
2	<p>【指摘】調査海岸全体を飛島海岸の場合は5回の中で全てクリーンアップ調査をするようにしたいという意向だが、段丘とか草の中については調査区域という視点が無い。調査枠より奥の部分をやるというのは1割程度という話である。調査海岸という範囲を最初の設定でどう考えてきたかという点で、キャップが大きいようだ。海岸の調査区域は何処の範囲かといった場合、海岸の奥の部分も含めて想定していたはずだ。地域の課題はどこにあるかを環境省としてもう一度再認識してもらいたい。</p> <p>【対応】調査区域については最初にモデル地域の選定の際に県と調整して、ここからここ迄という形で合意いただいている。総括検討会などの中でも承認いただいている。最初はその範囲をやっていくということである。ただ、地域のニーズとして、植生の奥にもゴミが多くて、何とかその回収・処理が出来ないかということは非常に重要な課題と受けているので、出来る範囲として調査区域に加えて1割程度の植生部分を検討していきたいということを、基本的考え方に示している。</p>
3	<p>【指摘】調査のやり方は、共通調査枠の周辺を優先して回収するという話になっていたが、海岸の中の横の移動が激しいので狭いと思う。すぐ横のゴミが移動してくる範囲だと思う。そこも改めて考えていただきたい。</p> <p>【対応】飛島の優先範囲は小さいという指摘はそのとおりかもしれない。定点観測の写真を見て、横の移動がかなり激しいという印象を持った。共通調査で新しく漂着するゴミの量を評価する際には、このような考え方でやっているという注釈を付けていかないと、データの比較という意味で困難なところがある。まずはその説明をして反映させたいと思う。</p> <p>次回のクリーンアップ調査以降には、基本的には全ての調査区域を全部回収したい。それが理想とっており、漁船又は重機など入れるようであれば、優先範囲に限らず、外も含めて全体をなるべく1回で回収できる方法を検討していきたい。</p>

4	<p>【指摘】共通調査のときに砂浜の表面だけを拾うとしているが、すぐ下に埋もれているようなゴミが残っている。それを考えると、今後の調査のやり方を議論していかないと、何のための調査が分からなくなってしまう。与えられた条件の中でこういう数値だったということになっていくと思う。改めて、指摘をしておく。</p> <p>【対応】ゴミが奥に含まれているということは非常に悩ましいが、今回の考え方は表面に出ているものだけとしてやっている。ボランティアなど含めて普通に皆が海岸清掃するときに、奥まで掘り起こして全てを回収するというやり方は、現実的ではないと思っている。この調査の整理は表面に出ているものとして、全地域そういう形で整理している。ただ、下から出てくる物が、新しく漂着した物と混同して評価がおかしくなることが在り得るので、そこについて今後、共通調査でデータを集めていきたい。全体を通して見た上で、下から出てくる可能性が非常に高かったということであれば、報告書にきちんと影響と書いていきたい。</p>
5	<p>【指摘】山形の漁網処理については大きな課題と思う。今後の検討事項に1項目乗るくらいの課題ではないかと思う。流木の処分と同じくらいの扱いをしていいと思う。酒田クリーン組合の炉で燃料という再利用も、埋め立て処分しなくてもいい方法の1つと思うので、検討の中に入れてもらいたい。</p> <p>【対応】漁網は、これからの課題として考えていく。</p>
6	<p>【指摘】モデル調査終了後の継続的な海岸清掃体制等の検討事項の件について、今後、本地域での体制、枠組みづくりについての原案があれば教えていただきたい。海岸清掃のための人員の募集方法について地域の関係者とされ、継続的に行っていく際に人員を確保する方法を検討していくとされているが、非常に難しい問題である。ここで検討したからといってすぐに調査結果として出てくるか疑問だ。</p> <p>【対応】今後の体制づくりは、非常に重要な検討課題と認識しており、来年度、第4回目以降はこの辺を集中的に議論していただきたく思っている。漂流・漂着ゴミの問題は地域特性もかなり異なるというところがあり、この地域検討会の場それぞれの地域で姿を描いていきたいと思っている。海岸管理者も1つの軸となり、市町村、ボランティアと一緒に、どうやって地域の問題を解決していくかを検討していただきたい。</p>
7	<p>【指摘】漂着物の処分は行政の立場とすると、一番金のかかる部分で一番頭が痛いことである。処分方法について、モデル事業をもとに今後の処理方法がスタンダードになっていくように方向性を出していければいいと思う。</p> <p>【対応】漂流・漂着ゴミに関する関係省庁会議の取りまとめに書いているように、海岸管理者は公物管理者として一定の責任を負うということが現行法令上に整理されている。総てを海岸管理者ではないが、ここは一定の関与、役割を果たしていただきたい。</p>
8	<p>【指摘】提案として、環境調査実施中とやるときにのぼりを立てて、国道を通るときに分かるようにしたらどうかと思う。参考までをお願いしたい。</p> <p>【対応】今後、いろいろな所の活動でも配慮をしていく必要があると考える。</p>

10	<p>【指摘】処理について一部が書かれているが、市町村で処理出来ないので産廃として業者に任せてコスト的にどれ位かかったとかが検討課題だったように思う。</p> <p>【対応】単価がトン当たり幾らかと把握して、重量も把握している。ただ、今回、この場でお金の話については控えさせてもらいたい。</p>
----	--